

第105回大阪府中小企業対策審議会

日時：令和7年12月16日

開会 午後3時00分

○矢野課長代理 お待たせしました。定刻となりましたので、ただ今より第105回大阪府中小企業対策審議会を開会いたします。

皆様、本日はお忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。私は、本日司会を務めさせていただきます、経済戦略局地域経済戦略担当課長代理の矢野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日は省エネルギー行動の推進のため、「エコスタイル」とさせていただいております。ご理解賜りますよう、よろしくお願いいたします。

また、本審議会は「審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づきまして、公開することとなっております。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、終了時刻は午後5時を予定しております。本日ご参会の皆様におかれましては、円滑な議事進行にご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、経済戦略局長の岡本よりご挨拶申し上げます。

○岡本局長 第105回大阪府中小企業対策審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶させていただきます。

委員の皆様方におかれましては、市政の推進に平素から格別のご理解、ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

現在、中小企業の皆様にとっては、物価高騰や深刻な人手不足など、取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあると認識しております。そういった中で、この地域経済成長プラン。本年3月に、5年振りに改訂したところでございます。

しかし、万博の途中に、本年の9月ですけれども、我々の方で万博後の持続的な成長・発展ということで、新たな大阪が進むべきみちを示す指針として「Beyond EXPO 2025」という、まだ骨子ですけれども、策定をいたしまして、中長期の大阪のビジョンを示したところでございます。

この大阪の成長戦略であるBeyond EXPO 2025における万博のレガシー継承の理念を踏まえて、このたび、本市の地域経済成長プランにつきまして、必要な改訂を行うことといたしました。

本当に目の前の経済状況が大変な中でございますけれども、ぜひ今日はよろしくお

願ひ申し上げます。

我々の方もこの前、物価高騰対策として、以前、2年前かな。プレミアム付商品券というのを出しまして、1万円出すと1万3000円。4口買えますから、4万円を出す5万2000円の買い物券がもらえる。

基本的には、携帯に5万2000円入れて、ピッピッとやっていくんですけども。東京とかはもうやっていないんですけど、大阪は紙券も出しまして、やはり高齢者、携帯を持っていない人が使えないので。最近では東京はそういう人は多分使えないと思うんですけど、我々は紙券を出して、高齢者の方に。それが10%、全体占めましたので、今回も採用する予定ですけども、前はそれで562億。

あれ現金払うので、使うしかないんですね。だからお店とか、あるいはホテルの宿泊でも旅行でも、とにかく使うというので、お金が経済が回るということで、562億ですけど。

今回は物価高騰対策で出して、当たり外れがあるのはちょっとおかしいと思ひまして、たくさん発行いたします。これが全部使われますと、806億というお金が市中に還元されるので、経済が回るために対策として、これは我々、経済戦略局でやります。ちょっと準備に時間がかかりますけども、できるだけ早くやろうと考えております。

本日の審議会はこれではなくて、地域経済成長プランの改訂を含めて、効果的な施策の実行に向けて、いろんな視点や専門的な視点を含めまして、大阪市の施策の方向性などにご意見をいただきたいと思ひております。最後まで、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○矢野課長代理 ありがとうございます。

それでは、本日お配りしております資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。

1枚目に本日の次第、2枚目に委員の皆様の名簿、3枚目に本市関係者の名簿、4枚目に配席図となっております。

続きまして、資料としまして、資料1「本日の議題」、資料2としまして「地域経済成長プラン（改訂案）」、資料3としまして「地域経済成長プラン（2025年3月）に基づく主な取組状況【概要版】」、参考資料1としまして「地域経済成長プラン改訂の方向性」、参考資料2としまして「Beyond EXPO 2025（骨子案）」

【抜粋版】」となっています。最後、参考資料3としまして「地域経済成長プランに基づく取組状況について」。以上をお配りしております。配付資料に不足などございませんでしょうか。

ここで、本日まで出席いただいております委員の皆様のご紹介ですが、より多くの質疑時間を確保するため、お手元に配付させていただきました委員名簿及び配席図をご覧いただきまして、ご紹介は省略させていただきます。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

なお、委員名簿のうち、久米委員、清水委員、二宮委員におかれましては、本日所用によりご欠席されております。

続きまして、本市出席者でございますが、こちらにつきましても紹介を省略させていただきますので、名簿及び配席図をご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします申し上げます。

それでは、本市審議会規則によりまして、議事進行につきましては会長にお願いすることといたします。本多会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○本多会長　大阪公立大学商学部の本多と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速、審議に入りたいと思います。本日審議する内容は、「地域経済成長プランの改訂について」と「地域経済成長プランに基づく取組状況について」です。

では、事務局より説明をお願いいたします。

○松野課長　地域経済戦略担当課長の松野でございます。私から、お手元の資料に基づきご説明を申し上げます。よろしくお願いいたします。すみません。座って説明させていただきます。

まず、資料1「本日の議題」をご覧ください。本日の議題は2点ございます。

1点目は「地域経済成長プランの改訂について」でございます。万博後を含めた施策推進の基本方針となりますプラン改訂案につきまして、不足している内容・視点など、ご意見を賜りたいと存じます。

2点目は「地域経済成長プランに基づく取組状況」でございます。プランに基づく施策・事業の取組状況に関してご説明申し上げますので、ご意見を賜ることができればと存じます。

では、1点目「地域経済成長プランの改訂について」でございますが、改訂内容を

ご説明する前に、全体的な改訂の方向性についてご説明をさせていただきます。参考資料1のプランの改訂の方向性をご覧ください。

今回の改訂の前提といたしまして、昨年度、皆様にご意見を賜りながら改訂いたしました、現行の2025年から2029年度までの期間の地域経済成長プランをベースとしながら、本年9月に策定されましたBeyond EXPO 2025（骨子案）に定められております万博後の大阪における施策の方向性や取組に関して、プランに不足する部分を追記し、万博開催前・中・後についてプランに記載し、取組を進めてまいります。

上段、改訂の趣旨に記載のとおり、今回の改訂はBeyond EXPO 2025（骨子案）の策定を受けて実施します。

Beyond EXPO（骨子案）とプランの関係でございますが、プランは大阪府市が一体的に取り組んでいる上位戦略である大阪の成長戦略等のもと、市経済戦略局として中期的に産業振興に取り組む計画を取りまとめるものでございます。一方、Beyond EXPO 2025は、その上位戦略である大阪の成長戦略に位置づけられるものとなっております。

双方の取組の一体性を図る必要があるため、必要な改訂を今回行うものです。

改訂の方向性は大きく2点ありまして、資料中段、改訂の方向性に記載されている「万博後のレガシー継承」の考え方を反映すること。そして、Beyond EXPOの各施策の方向性に位置づけられる本市重要施策・取組を反映することといたしております。

では、Beyond骨子案につきまして、概要をご説明いたします。参考資料の2をご覧ください。Beyond骨子案の抜粋版でございます。

Beyond EXPO 2025（骨子案）では、主に大阪・関西万博開催後の施策の方向性や取組を中心に記載されております。

ツーアップの資料の1ページ目の下半分のページ、下の方ですが、重要分野におけます、経済力、都市力と、その下、人材力。この辺りが本市のプランに関係する分野というふうになっております。2ページ目以降は、上半分に取組の柱、下半分に施策の方向性が示されております。

プラン改訂作業にあたりまして、これらを確認いたしまして、プランに反映すべき箇所を改訂案に反映してございます。

それでは、具体的な変更箇所につきましてご説明を申し上げますので、資料2「地域経済成長プラン【改定案】」をご覧ください。こちらにつきましては、変更点を中心にご説明を申し上げます。

プラン2 ページ目。最後のポツにつきまして、B e y o n d 骨子案の表現を反映しております。

3 ページ目。矢印2つ目、現行プランにおいては、実質経済成長率は数値目標に位置づけられていないため、文言修正を行いまして、矢印3つ目は、万博開催後の時点を追記・反映しております。

6 ページ目。時点を明記いたしました。

7 ページ目につきまして、B e y o n d 骨子案の表現を引用しまして、レガシー継承の考え方等を反映いたしました。

8 ページ目。先ほどご説明しましたような今回のプラン改訂の趣旨を追記いたしました。

9 ページ目、10 ページ目については、B e y o n d 骨子案の表現を反映しました。

12 ページ目。大阪産業技術研究所において実施している研究につきまして、中期計画の目標の表現に合わせて、細かい修正を行いました。

続いて13 ページ目。(4) 人材の確保・定着、多様な人材の活躍促進の2つ目のポツ。人材戦略支援につきまして、中小企業におけます人材の適正配置や育成環境整備などによる自らの組織変革と、副業人材の活用などに戦略的に取り組むことができるよう支援をする中核人材確保のための人材戦略支援の新たな取組を追記いたしました。

(6) 中小企業の魅力、支援施策等の発信につきまして、1つ目のポツ。万博開催期間中に実施した「ものづくり魅力発信事業」を、一過性のものでなく引き続き実施するため、表現を改めました。

15 ページ目。(1) 商店街・卸等の活性化、ポツ4つ目、空き店舗を活用した商店街再生事業につきまして、若手や開業後年数が浅い店舗を支援対象としている点を表現いたしました。

16 ページ目。現状と課題の4つ目のポツ。B e y o n d 骨子案の表現を反映しました。

18 ページ目。現状と課題の2つ目のポツ。こちらも同じように、B e y o n d の

表現を反映いたしております。施策の方向性、具体的取組例につきましては、Beyond 骨子案の大阪独自の強みを活かした次世代産業にチャレンジするイノベーション先進都市におけます施策の方向性でも紹介されております、最先端技術の産業化に向けた実装化支援の新たな取組を追記いたしました。

続きまして20ページ目。万博を契機に拡大・深化した姉妹都市やビジネスパートナー都市、中長期的に主に経済交流を促進することを目的としたMOU等を締結いたしました都市との都市間ネットワークが、より一層構築されてきたことをチャンスといたしまして、中小企業の海外市場への挑戦を後押しする。そのような内容を追記いたしました。

21ページ目。施策の方向性では、Beyond 骨子案でも紹介されております「国際金融都市戦略・新アクションプラン」の取組を反映しました。また、具体的取組例におきましても、Beyond 骨子案の金融系外国企業の高度外国人材の子息等への生活環境整備の一環として誘致するインターナショナルスクールの誘致について、こちらに新たに追記いたしました。

22ページ目。具体的取組例の3ポツ目について、令和7年度から実施いたしております市内拠点投資促進事業につきまして、令和7年度に交付要綱を設定したため、このタイミングで事業内容を反映する修正をいたしました。

23ページ目。現状と課題につきまして、万博後も含めた大阪の魅力発信・ブランドイメージの継承について反映するとともに、具体的取組例につきまして、Beyond 骨子案に記載されている「観光消費の拡大（ナイトコンテンツ）」、「大阪の観光資源の強みを活かした集客・周遊事業」の取組につきまして反映しております。

24ページ目。施策の方向性につきまして、MICE誘致は府・市、経済界、大阪観光局等、官民が一体となって世界水準のMICE都市をめざす旨を記載しております。また、具体的取組例につきまして、万博後の大阪MICE誘致戦略に基づく国際会議誘致促進のための助成制度の内容を追記いたしました。

25ページにつきまして、本プランでは、施策の企業活動等への支援効果を評価するためKPIを設定するとともに、地域経済の状況等を示す参考指標を設定いたしまして、実績をモニタリングすることとしております。このたび、これらを時点更新しております。

26ページにつきまして、その参考指標でございますけれども、最上部の実質経済

成長率については、Beyond 骨子案において2030年の経済規模（名目GDP）を約50兆円とする目標が示されておりますので、参考指標に追記いたしました。

その他の参考指標につきましては、25ページ同様、時点更新をしております。ご確認をお願いいたします。

続けて説明をさせていただきます。続きまして、現行プランに基づく具体的な取組内容をご説明いたしますので、資料3「地域経済成長プランに基づく主な取組状況」をご覧ください。

こちらにつきましては、参考資料3の「取組状況について」の要約版となっております。なお、今年度より新たに取り組んでいるものにつきましては、星印を記載しております。資料3の右肩の方に凡例はお示ししているのですが、星印を記載しております。また、今年度の取組実績といたしましては、今年度はまだ途中でございますので、基本的に上半期、9月末終了時点を反映しております。

プランにおける3つの各戦略に基づき実施している施策につきましては、継続して実施しているものが多いですけれども、いずれも上半期までの実績としては、対前年度比でおおむね順調な取組状況となっております。

では、令和7年度の新たな取組を中心にご説明を申し上げます。

資料の1ページ目と2ページ目の上段に、戦略Ⅰ「中小企業の経営基盤の強化、変革・挑戦」に基づく主な取組を記載しております。

1ページ目、①各支援機関と連携した経営課題等への総合的支援の2つ目の枠囲み部分なんですけれども、大阪産業技術研究所を通じた技術力の強化につきまして、今年度は大阪・関西万博、大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンチャレンジ」にて、令和7年8月26日から9月1日まで展示を行うなど、万博関連の取組として実施いたしました。

最下段の「中小企業の魅力、支援施策等の発信」については、主な取組といたしまして、万博来場者に対して、中小ものづくり企業の魅力と技術力を発信する「大阪のものづくり おもしろい未来展」を開催し、ものづくり企業23社の参画のもと実施し、延べ1万662人にご来場いただきました。

続きまして、2ページ目をご覧ください。戦略Ⅱ「イノベーションが次々と生まれる好循環づくり」に基づく主な取組を記載しております。

①スタートアップの創出・成長の加速とイノベーション・エコシステムの強化につ

きましては、2つ目、国内外のスタートアップ支援ネットワークの強化と新たなスタートアップの担い手の創出につきまして、今年度は6月に京阪神で連携するスタートアップ・エコシステムが、国のグローバル拠点都市に選定されました。また、大阪イノベーションハブの機能刷新を図ることで、より一層、イノベーション促進施策を展開させる取組を進めているところです。

また、大阪のエコシステム、スタートアップの魅力発信について、スタートアップや投資家にとって実利のあるイベント「テックおおさかサミット」を開催しまして、約3,500人のご参加をいただき、大阪・関西が誇るスタートアップを広く国内外に発信してまいりました。

②先端技術等を活用した社会課題解決に資する新事業創出の支援におきましては、5G X LAB OSAKAを拠点として5G等先端技術を活用した新たな製品・サービスを創出する事業者の支援を行い、万博ではパビリオンでの出展支援も実施いたしました。

資料の3ページ目をご覧ください。戦略Ⅲ「国際ビジネス交流の促進や人・投資等の呼び込みによるビジネスチャンスの創出」に基づく主な取組を記載しております。

①国際ビジネス交流の促進では、万博を契機といたしまして、海外販路開拓の機会提供により、新たなビジネスチャンスの創出等に取り組みました。ビジネス商談会、大規模商談会やクリエイティブ分野における新規ネットワーク形成等を実施し、大阪海外ビジネスワンストップ窓口での問合せ実績についても、今年度9月末時点で前年度の年間実績を超えております。

今年度は、万博を契機といたしまして、グレーター・マンチェスター合同行政機構との姉妹都市提携のほか、MOU等を締結し、国際ビジネス交流の強化を図りました。

③国内外からの投資を呼び込むための魅力的なビジネス環境の整備では、大阪への企業等の進出、立地の促進支援といたしまして、検討企業への進出準備のための無料オフィスの提供などのサポートや、国際戦略総合特区における税優遇インセンティブを実施しております。

今年度は新たな取組といたしまして、最先端技術等の実装化・産業化に資する市内拠点の新増設に係る経費の一部を負担する市内拠点投資促進事業を実施し、今年度9月末時点の企業等誘致件数は18件となっております。

④交流人口・関連マーケットの拡大に向けた都市魅力の向上では、大阪府・大阪観

光局等とも連携しながら、市内重点エリア等の魅力向上や大阪の強みを活かした魅力創出等の観光施策を推進しており、特に今年度は、主な取組実績の2つ目のところですけれども、大阪の観光資源の強みを活かした集客・周遊事業といたしまして、「OSAKA MUSIC LOVER」等のイベントを「大阪来てな！キャンペーン」の一環で実施いたしまして、3つ目、万博の機会に大阪のにぎわいを創出する音楽等による大規模な集客イベントといたしまして「SONIC OSAKA EXPO 2025」、「大阪・関西万博開催記念 Survive FES」などを開催いたしました。

一方で、観光客増により発生する課題の解決に向けまして、日本橋観光バス乗降場において、誘導員を配置し、観光バス及び観光客の適切な誘導を行うことで安全を確保しながら、観光客の受入れを実施するなどの対策を講じました。

⑤戦略的なMICE誘致では、万博開催地である大阪・関西への注目が集まるタイミングで関係機関等が一体となったMICE誘致活動を推進しており、国際会議の開催を助成するとともに、インテックス大阪の機能の維持・向上に向けた改修の取組を実施いたしました。

今年度上半期、9月末時点のOSAKA国際助成金による開催支援件数は4件で、昨年度年間の6件の約66%を超える実績となっております。

引き続き、プランの目標達成状況についてご説明をいたします。行ったり来たりで申し訳ないんですけれども、参考資料3の取組状況の最終ページ、定量的指標等をご覧ください。

①KPIにつきまして、現時点で上半期の実績のご報告に留まってしまいましたが、各指標に対応する目標値に対しまして、2025年度実績は、おおむね順調な取組実績となっております。

②参考指標につきましては、特筆すべき点を申しますと、中ほど、スタートアップ等における資金調達額が2023年度比で2倍、そして万博による効果も大きいと思われましても、大阪府における延べ宿泊者数が約1.1倍、訪日外国人旅行消費額が約1.8倍というふうになっております。

取組状況の詳細につきましては、参考資料3本体に掲載をしております。後ほどご覧いただければと存じます。

以上、地域経済成長プランに基づく取組状況についてのご説明でした。私からの説

明は以上でございます。何卒よろしくお願いいたします。

○本多会長　　ありがとうございました。

それでは、ただ今の説明を踏まえまして、皆様のご審議を賜りたいと思います。議題としては2つあるんですけれども、これはもう一括して審議するということですので、どちらの議題に関してのご意見、ご質問でも結構ですので、自由にお話しいただければと思います。

また、委員の皆様方からご質問とかコメントが出ましたら、それに対して答えていただけるようでしたら、経済戦略局の方々からも適宜お答えいただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは皆様、何かご意見ございましたら挙手をお願いいたします。時間の関係とかもあって挙手方式となっておりますので、喋れなかった方は、すみませんが、また後ほどご意見をいただくということで。はい。じゃあ、北野委員、よろしくお願いいたします。

○北野委員　　大阪シティ信用金庫の北野でございます。私からは、最近の中小企業の状況と意見等について、お話ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、取引先企業に行った景況調査からご説明します。

今年の7月～9月の「総合業況判断D I」は9. 1で、前期の4～6月に比べ0. 3ポイント低下し、3四半期ぶりに悪化しました。同D Iは、前期に改善の鈍化を経て反転しており、日銀が発表した企業短観3期連続改善となっていました。中小零細企業の景況感には足踏み感が強まっています。

業種別にみると、前期比は建設業1. 8ポイント減、卸売業1. 4ポイント減、製造業1. 3ポイント減で悪化した一方、サービス業、運輸・通信業、小売業では改善を示しており、業種間でばらつきが生じております。

経営上の問題点は、「経費増」が36. 2%で最も多く、次いで、「売上・受注減少」が33. 2%で多く、以下「人手不足」27. 8%、「競争激化」27. 7%、「仕入先からの値上げ要請」19. 6%となっています。

業種別に見ると、「経費増」と答えた企業割合は、運輸・通信業57. 5%で最も高く、また、「売上・受注減少」は製造業と小売業がともに42. 1%、「人手不足」は、運輸・通信が49. 0%、建設業が47. 0%と、特に高い割合となっています。

10月～12月の自社業況を予想する「総合業況見通しD I」は9. 3で、今期実

績を0.2ポイント上回る見通しであります。来期は改善が見込まれるものの、コスト高や人手不足に加えて、中国人のインバウンド需要や米国の関税措置の影響が不透明要因となっており、今後の動向については注意が必要と思われま

す。特に、赤字企業の割合は、コロナの影響により増加したのち終息とともに改善傾向にあります。原材料価格の高止まりや人手不足の件費の上昇などにより厳しい状況が続く、コロナ前の2020年3月と比較すれば依然として高い状態ではあります。が、緩やかに減少基調となっております。

倒産件数は、増加傾向で特に年商5,000万円未満の小規模企業の倒産が7割を占めており、企業間格差が広がっています。

堅調な企業は、億円単位の補助金を活用し、積極的な設備投資を行う企業もみられる状況となっております。

次に大阪・関西万博の経済効果について、今回、取引先1,400社に自社への影響についてアンケートしたところ、プラスの影響が25%、マイナスが24%、影響なしが51%と直接的な影響は限定的でした。しかし、大阪経済活性化への効果については、効果ありが75%、効果なしが9%となっており、業種においても、すべての業種において経済活性の効果を実感していることが示されました。

当金庫は万博ヘルスケアパビリオンに38社の製品・技術を出展しましたが、出展企業が出展を契機に異業種とのコラボがいくつも実現しております。

中小企業にとって、自社の人材やノウハウ、資源には限りがあり、製品開発から商業化までには、外部機関の活用や他社とのコラボが必要であり、そのための機会の創出とコーディネートが欠かせないものであります。

その意味で、今回の成長プランにおける、Beyond EXPO 2025にも大いに期待するところでございますので、ご支援のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、資料2の地域経済成長プランの15ページ「商店街・卸等の活性化」についてです。

当金庫も長年、商店街の活性化には、大阪市商店会総連盟の千田理事長のご指導も仰ぎながら、各種イベントを企画し、にぎわいの創出に取り組んでいるところでございます。

今回、施策として挙げられている、空き店舗を活用した新たな開業や入居者とのマ

マッチング支援についてですが、開業するにあたり、改装費等の必要資金について、官民が出資しファンドによる支援を行ってはいかがでしょうか。

現在、当金庫では、民間都市開発推進機構と共同出資によるファンドを設立し、空き家を利活用して地域を活性化させる事業に取り組んでいるところですが、その商店街版を設立してはいかがかと思います。

この成長プランにある、空き店舗情報を掲載し、マッチングを促進する事業とコラボすれば、相乗効果も期待できるものと思われます。

検討に際しましては、私どもにご相談いただければ、ご協力はさせていただきたいと考えております。以上でございます。ありがとうございました。

○本多会長 どうも、ありがとうございました。

では、最後の点ですよね。商店街の空き店舗と入居者のマッチングに関して、官民のファンドをつくって見たらどうでしょうかというご意見ですが、お答えいただけますでしょうか。

○米倉部長 ご意見ありがとうございます。大阪市産業振興部長の米倉でございます。たくさん、経済、大阪市の現状、指標の状況のご紹介も賜りまして、本当にありがとうございます。

最後にご提案いただきました、商店街での店舗のマッチング。入居される方とのマッチング促進に関してですけれども、いろんな工夫を、我々も改善に取り組んでおりまして、宅建協会のホームページにちょっと紹介していただいたりしているんですけれども、そのホームページの掲載内容の改善でありますとか、それと実際、空き店舗を商工会議所さん、それから大阪市商連さんと連携して、空き店舗で新規出店する若手支援ということも取り組んだりしておりまして、そちらでは空き店舗に必要な開業の支援。ほんの一部ですけれども、補助を出させていただいたりはしているところで。

今後、ファンドということでちょっと大きなお話になりますけれども、どういったことができるかというところは、我々も引き続き検討させていただきまして、また必要に応じてご相談をさせていただければなと思っております。よろしく願いいたします。

○本多会長 ありがとうございます。じゃあ、今後検討していただくということで。

○北野委員 ちょっとよろしいですか。

○本多会長 どうぞ。はい。

○北野委員 ファンドについてですが、今は大きな金額で考えなくてもよいと思います。店舗のスタートなので、小口のファンドで考えるのがいいかと思います。

○本多会長 では、小関委員、お願いします。

○小関委員 大阪公立大学の小関です。今のお話少し絡めながらのお話でよろしいでしょうか。

○本多会長 はい。お願いします。

○小関委員 1つは、すごく数字的な分析を説明していただいたので、万博という、盛り上がった中での実際の経済の実態については発見がありました。

元々、私はビヨンド万博ということについて、このテーマをいただいた後からも考えてきました。万博で起きたことというのは極めて、各々の出展者の人にとってはニッチなことで、各々の出展者もしくはそこでの出会いをどうやって広げるかという、非常にミクロな現象になっております。

大企業さんの大がかりなイベントというのはさておき、中小企業のことですと、とても大事な貴重な出会いとか、あるいは国際化とか、今まで考えていなかったようなきっかけができていたと。ただ、それをどのようにして、それを自分のものにするかとか、経済活動に結び付けるかという段階では、やや途切れてしまう可能性を持っているわけです。

雑談になりますけれども、今、万博ロスみたいな動きがあって、スタンプラリーとか盛り上がっている話もあって。そのような火をなんとか経済活動に持っていくには、それなりの刺激策が大事だと思っております。

具体的に、大阪市さんがどのような施策をするかというところまではアイデアはないのですが、強調したいのは、今起こっている現象はミクロであるということ。それをどうやって体制、レジームといったものとして拾い上げていくかということです。補助金も1つだと思えるんですけども、なんらかの形ですくい上げるかというところについての具体的な施策が求められていると思います。

大阪市における経済政策となると施策に記載されていますが、今後は非常に大きなランドスケープといったものへの期待があります。ニッチ、レジーム、そしてランドスケープという3つのレベルを意識しながら大阪市さんの政策そのものの具体策を講じることで、具体的な経済活動につながっていると思います。

もう1点は毎年言っていることですが、スタートアップ、イノベーションの方です。

万博でいろんなイベントがありました。特にヘルスケアパビリオンには私は何度も行きまして、仲の良い起業家さんも訪問したりしました。創業とか起業などの、新しいレベルの活動は非常にインパクトがあって良いのですが、いわゆる投資資金はどうしても、カンパニークリエーション、創業のところに力が行っています。

問題は、社歴が増せば増すほど、会社としての課題を解決できずに、お金だけどんどんなくなってしまうという状況の会社さんが、そんなに少ないわけではないので、その支援を強化する必要があると申し上げてきました。

具体的には、産業局さんがなさっているようなサービスをベンチャー、スタートアップに応用するような支援体制をつくったり、中小企業協議会さんともお話していますが、ベンチャーはキャッシュがなくなると非常に大変ですので、会社が続けられないのであれば次のステージに向けた支援、例えばリボーンプロジェクトのような支援が行き届いていくことが期待されているという実感があります。

一方で、国の方ではユニコーンとかヒーローとか大きなことを言っていますけれども、大阪らしく、1人のヒーローではなくて、地域全体として活動が盛り上がっていくような仕組みがあればいいかなと思いました。以上です。

○本多会長 ありがとうございました。大きく2点ですね。

1点目はポスト万博で、どういうふうにその万博の火を経済活動につなげていくか。ニッチなところから大阪市とかっていうところに広げていくかということと、もう1つはスタートアップ支援のお話で、アーリーステージ、創業したてのところだけではなくて、そこから成長して行って、会社の課題解決できる。次のステージにおけるスタートアップの支援というのも考えるべきではないかというご意見でしたけれども。大きく2点あったかと思いますが、お答えいただけますでしょうか。

○中野部長 企業支援担当部長の中野でございます。ご意見ありがとうございます。

1つ目なんですけれども、万博でのリボーンチャレンジの参加の企業さんですとか、あるいは万博のリボーンチャレンジに参加できなかった企業さんの中でも、色々と今後、この万博をきっかけに頑張っていこうとされている企業さんもあると思います。

特にリボーンチャレンジの400を超える企業さん方については、あれで終わりではなく、我々産業局と一体となって、その企業群が今後どのように、海外が来たと

きに引き合わせるとか、そのへんのつなぎの役割もさせていただきたいと思っております。当然、この火を消すようなことはなく、その企業さんを大事に、今後の海外展開に向けてもつなげていきたいというふうに思っていますし、この前も、12月ですね。そのリボンチャレンジに参加した企業さん、この大商、マイドームで展示会もさせていただきました。そういう形のイベントとかもできたらいいなと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○井内委員　ちょっと関連して、よろしいですか。

○本多会長　ちょっともう1点の方。スタートアップに関して、ちょっと。すみません。はい。

○一入部長　イノベーション担当部長の一入と申します。よろしくお願いいたします。

スタートアップの支援については、大阪市の方の支援拠点であります「大阪イノベーションハブ（OIH）」が2013年にオープンしてから、かなり期間が経っていることもあって、大阪の支援環境自体が徐々に変わってきているというのが現状です。

スタートアップの成長支援というところは、国からも今後もっと取り組むべきということで課題認識を共有いただいております。我々、大阪イノベーションハブの方も、これまで幅広く、プレシードからミドルなどの幅広く支援をしてきていたところを、もう少しシード期、アーリー期などのその時期の支援に絞って重点的に取り組み、民間の支援機関がたくさんできてきているので、ミドル期以降をそこにしっかりつなげて、そこで具体的な資金供給などをいただきながら事業を拡大していくというような流れをつくっていきたいなということで、今、官民連携の取組を進めているところです。

引き続き、そういったところを重点的にやっていきたいなということで、今年度より新たに取組を進めております。よろしくお願いいたします。

○本多会長　ありがとうございます。小関委員、よろしいでしょうか。

○小関委員　はい。ご説明ありがとうございました。

ただ、中之島の動きを見ていると、また何かイベントで皆さん忙しくて、実を伴った動きが。社数が増えれば増えるほど、そちらに力点がいつているなというふうに。当事者の話で、そういう話もしていますので、ぜひ引き続き、横串でよく状況を見ていただきながら、どこが抜けているかということを確認していただければありがたい

と思います。以上です。

○本多会長 ありがとうございます。では、井内委員。万博に関することですかね。

○井内委員 色々あるんですけど、まず万博に絞ったお話を。

○本多会長 はい。もうそれだけではなくて、色々。

○井内委員 そうですか。今のお話を伺いますと、私ども商工会議所で産業局さんと一緒に、まさにリボンチャレンジ。ヘルスケアパビリオンで企画・運営をさせていただいて、432社ですかね。スタートアップもいれば、中小企業が何社かで集まって共同で製作するみたいなものもありましたので、これをそのまま放っておけないということで、さらに発展させたりとか実装にもっていききたいとか、事業化したいとか、そういう企業さんについては、そういう人たちはやっぱり支援しないといけないと思っています。

大阪市さん、大阪府さんとも色々ご相談してしまして、京阪神の商工会議所が核となって、事務局になって、関西ワイド、場合によっては関西以外の企業との協働も含めて。例えば、大企業、中堅企業とのマッチングだとか。それは商工会議所、大から中小が全部入っていますので。とか、あるいは実証支援、販路開拓とか。あるいは海外でも今回、万博ですごくいろんな関係ができましたので、海外進出の支援とかですね。あるいは、例えばジェットロさんなんかにお問い合わせとか、そういったことを考えたいなと思っています。もちろん、そのときには大阪産業局さんのリソースも使わせていただきたいしということで、いろんなところがばらばらになるんじゃなくて、いろんなところにつないでいくことをやりたいなと思っています。

そういった意味で、ちょっと今、「新事業共創ファーム」って仮称で呼んでいるんですけども、それを京阪神一体でやっていこうということでやってしまして、その際に伴走支援するためのコーディネーターの費用とか、あるいは実証のための費用とか。若干、やっぱり支援をいただけると大変ありがたいなと思っています。事務局の手間代は、私ども自分たちでやるつもりなんですけども、そこに向けてできれば支援いただきたいと思いますし、それとあわせて今回、大阪府市さんの方で色々考えられますけど、「Global Startup EXPO」というのをやりまして、大きなイベントをやったので、これぜひ来年以降も継続していただくと、やっぱり注目が大阪に集まると思います。

もちろんスタートアップだけじゃなくて、中小企業とかで新しい分野に進出するの

も大事なんです。さっきお話ありましたように、ユニコーンだけじゃなくて、色々発想を広げるのも大事だと思っております。

それから、2点目はそれに関連して、海外との関係を、先ほどちょっとお話ありましたように、非常にグレーター・マンチェスターとか色々なご縁を大阪市さんのおかげでいただいたりしましたので、商工会議所でも例えば色々やりましたので、それをぜひ、これからもレガシーとして追求していきたいと思えます。

リアルな交流ですね。展示会に出展するとか、ビジネス商談会やるとか、そういったリアルなビジネス交流が進むようなご支援なんかもお願いしたいし、O-B-I-C、大阪外国企業誘致センターへの色々ご支援を引き続き、予算を通して支援をお願いしたいなというふうに思っております。

それから、万博絡みということであるとそのへんなんですけども、ほかの件もまとめてよろしいですか。

○本多会長　そうですね。はい。お願いします。

○井内委員　万博の次は多分I Rが来ますけど、やはりM I C Eの話が非常に重要だと思っております。これがホスピタリティ産業として広く捉えて、大阪が大きなハブになればいいなど。

そのためには、やっぱり人材育成から始まって、様々な環境整備が必要です。例えば、外国の人を雇うのであれば在留資格の問題とかが出てくると思いますし、そのへんが地域全体として取り組んでいけるように、M I C E誘致のための委員会には、私ども委員に入っておりますけども、そういったところもぜひ支援をしていただきたいなというふうに思います。

それから他方で、商店街の皆さん。先ほどちょっと空き店舗の話がございました。これは我々も一緒にやらせていただいているので、非常にありがたいんですけども。やはり繁華街はかなりまだ、ごみ問題とかトイレの問題とか違法駐輪の話とか、すごくあって。去年も多分、申し上げたと思うんですけども。そういった環境美化的なところも、ぜひ宿泊税とかを府から取ってきていただいて、支援していただくとかですね。大阪市さん自身がだいぶやっていたらというのは、ミナミの活性化協議会でも伺っておりますので、それはそれでありがたいと思っておりますけど、ぜひそういったこともお願いします。

それから最後に、中小企業の底上げというか。最初にシティ信金さんからお話あり

ましたけども、円安がやっぱりずっと続いておりますので、製造業がやっぱり原材料高がかなり苦しいとか、価格転嫁がまだ道半ばとかありますけども、多分、色々お話を伺っていると、最大の問題はやっぱり人材確保がなかなかできないということでございまして。高度人材はもちろんですし、物流とか介護とか、そういうエッセンシャル産業的なそういう人たちもなかなか集まらないということで、非常に危機的な意識を持っている方が多いと思います。

ですから、外国人材も含めて多様な人材を雇用できるような、中小企業が雇用できるような、そういう発信とか支援とか、それをぜひ引き続きお願いしたいと思っておりますし、環境がものすごく変化しておりますので、経営者自身がやっぱりリスクニングが必要だという問題意識を我々持っておりますし、一応そういう講座なんかもやっておりますけども、やはり中小企業の経営者から現場の人まで、どうやって人を確保するかというのが、すごく重要な課題だなというふうに思っております。ちょっと色々申し上げましたけど、以上でございます。

○本多会長　ありがとうございます。大きく5点あったかと思えます。

1点目は、万博、ポスト万博のお話で、大商さんでも色々つなげるという役割をされているけれども、結構なそれも手間とか費用・コストがかかってしまうので、その辺りの支援とかを検討してほしいということと、海外との関係ですね。もっと活発に支援していくという。

あと、I R、M I C Eの誘致の話と、4番目に商店街の空き店舗。ごみ問題とか違法駐輪のお話ですね。

5点目に中小の底上げのお話で、北野委員からもご指摘あったように、人材の確保、人材不足が非常に大きな問題になっていて、外国人材も含めて人材確保していくための支援が大事だと。経営者自身のリスクニングということも大事じゃないかというご指摘でしたけれども、どうしましょうか。どなたか、一括はちょっと難しいですよ。分けて答えていただければと思います。はい。お願いいたします。

○米倉部長　多岐にわたるご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

私の方から最初に、ポスト万博、レガシーといったところで、先ほどのご意見と重なるところがちょっとあるんですけども、万博におきましてはリボンチャレンジをはじめ、本当にたくさんの中小企業、スタートアップの新しい技術・サービスが披露されました。

そういったところをしっかりと万博のレガシーとして、今後しっかりと実証、実装化につなげていくということで、大阪商工会議所さんとは、大阪府と大阪市とも一緒に実証実験の支援なんかもやらせていただいておりますけれども、引き続き、その辺り充実を図っていかないといけないなというところと、つなげるといったところで、今、大阪商工会議所さんとか関経連さんなんかの経済界にもご参加いただいて、国、大阪府・市、経済界なんかで、万博の最先端技術をしっかりと今後、実装化させていくための仕組みづくりみたいなところを、今、検討を一緒にやらせていただいておりますので、そういった取組をはじめ、しっかりと万博のレガシーといったところを発展・成長させていきたいというふうに思っておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

すみません。私の方から1点目だけ、ご説明させていただきました。よろしくお願いいたします。

○中野部長 企業支援担当部長の中野でございます。

先ほどの海外のGMですとか、ベンガルールもそうなんですけども、色々とMOU結ばせていただきました。

その後のリアルなビジネス交流ということで、早速なんですけれども、もう12月のこの前、5日には、ベンガルール商工会議所の3社と、大阪市の3社と、これはもう、さすがにすぐに直接の面談というわけにはいかないの、オンラインでのミーティング、交流会などもさせていただきましたし、今後どんどんとそういうのが増えてくると思いますので、まずはオンラインでそれぞれの国とさせていただいて、その後、向こうに行ったりとか、こっちに来ていただいたりとかってというのは、来年度以降、しっかりと続けていきたいと思っております。

それと、最後の底上げですね。中小企業の底上げという。人材。確かに聞くところ、すごく困っています。ただ、現場の外国人の人材とはまた別に、中核人材ですね。いわゆる中核人材の問題もある。そこにまた副業も絡んで、どういうふうにとっていこうかというのを、我々は今、産業局の方とも、来年度に向けて、この人材についてはちょっと一生懸命、大阪市の方でも予算を取りにちょっと頑張っているんですけど、なかなか、その人材確保だけでお金を取れるかという、なかなか難しいところもありまして。今ある産業局の中で、色々とその人材に目を向けていくとか、そのへんの作業をさせていただいて、来年度以降、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。あ

りがとうございます。

○本多会長　ほかはよろしいですか。I Rのこととか。

○太田部長　立地交流推進部長の太田でございます。お尋ねになりましたM I C E についてのお答えになります。

○本多会長　はい。

○太田部長　府市におきまして戦略を定めまして、大商様にも参画いただいています委員会を中心に、現在進めているところでございます。

万博後の持続的な経済成長と都市ブランドのさらなる向上をめざしまして、大阪における国際会議の開催を促進するための新たな助成制度の開始に向けまして、今、取組を実施しているところでございますので、来週開催されます委員会においても、また議論を深めて、府市並びに委員会の皆様と一緒に進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

○本多会長　ありがとうございます。井内委員、いかがでしょうか。

○井内委員　全体的には、ものすごく幅広くカバーしていただいていると思いますので、我々としてどこに関心があるかと、少し、特に関心がある分野というのを申し上げたということですので、引き続きお願いしたいと思います。

○本多会長　ありがとうございます。じゃあ、三宅委員の次に布施委員という順番でいきたいと思っておりますので、三宅委員、お願いいたします。

○三宅委員　大阪市工業会連合会から来ました、三宅です。

すばらしい、この資料、ありがとうございます。この中でB e y o n d E X P O 2 0 2 5 のところで、先ほどから話ありましたI Rという言葉がありましたけども、こちらの地域経済成長プランの方にはI Rという言葉が一切なかったので、どうしてかなと。ぜひ入れていただきたいなど。

私も時々アメリカも行きますけれど、アメリカでは、I Rというとラスベガス。ラスベガスでは、皆さんご承知のとおり、1月にCESというテクノロジー見本市という、世界一の見本市をやっていますし、ラスベガスでは数多くのすばらしい展示会をやっていますので、ぜひこのI Rとセットとして、ぜひそういうことも目をつけていただい。そのためにも、インテックス大阪をなんとかしていただきたい。ちょっとあれでは、どうしても。私どもも何回も出展していますけれど、ビッグサイトと比べると、ビッグサイトはどんどんどんどん広げているのに、なんかインテックスはもう

ひとつだなど。

私、今年、「POWTEX 2025」という粉体工業展という、その実行委員長をさせていただきましたけれども、やはり終わってからも、非常によかったんですけど、中にはやっぱり、東京と比べると人が少ないな、あるいは出展社、出展数が少ないなど。そういうことを言われますので、ぜひラスベガスをめざしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それとあわせて、去年、私、ベンガルールの話しましたけれど、うまく大阪市さんがインドのベンガルールのMOUを結んだ。すばらしいなど。

私、11月にベンガルールの方に行ってきました。元々はインドのシリコンバレーといわれるところで、ソフトウェアばかりかなと思っていましたけれど、そうではなくて軍需産業とか、非常に製造業が集積して、日本ではトヨタ。もうトヨタ、いっぱい出ているんですね。トヨタ関連とか。あるいは、ロボット産業の安川電機とか。あるいは、日本でいったら横河電機とか。もう本当、名だたるところがそこに出ている。

ぜひ今後も大阪市さん、どんどん海外に向けて、ぜひ手を結んでください。そのためにも1つ、国際人材。ここにも育成ということがあるんですけど、今、来ていただきたい、来ていただきたいばかりで、その前に底上げというか、中小企業のグローバル化というか。国際人材、その支援というか。

そのためには、やっぱりこちらから、ミッション団というと非常に肩が重いんですけど、視察団。それをいっぱい出して、国際経験というものを、ぜひいろんな方に積んでいただきたい。そういう場を、ぜひ計画していただきたいなどと思っています。よろしくお願いいたします。

○本多会長 ありがとうございます。大きくは2点あったと思います。

まず1点目は、ラスベガスの話。IRの話がこのプランの中に全然入っていないという話で、確かにそう言われてみたらそうなんですけど。ちょっとその辺り、いかがでしょうかということと、あと2点目の国際人材の育成とか、海外から人を呼ぶだけじゃなくて、外にもっと出て、人材を視察に行かせるようなことも大事じゃないかというようなお話でしたけれども、まずは1点目、いかがでしょうか。

○米倉部長 産業振興部長の米倉でございます。

プラン全体に関わるIRの件につきまして、プラン全体に関わる話でございますので、ちょっと私の方からご説明をさせていただければと思うんですけど。

今回のプラン、おっしゃっているように I R に関する記載がないということなんですけれども、今のこのプラン自身が、2025年から2029年度と、その期間のプランということで、I Rの開業予定が2030年予定ということで、現時点では、中身的には I Rに関するものがないと。

今後、I Rに関すること、様々明らかになってくる部分でありますとか、I Rとの相乗効果とか、インテックスのお話もございましたけども、そういったところが見えてき次第、適宜、タイミングがあった際に、I Rにかかる中身、当然盛り込んで、出てくることになるかと思いますので、現時点ではそういったことで、今、記載はあまりないといったような状況で、また今後、検討してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○本多会長　もう1点の方はいかがですか。国際人材。底上げというお話。はい。お願いします。

○新井部長　都市間交流担当部長、新井と申します。よろしく願いいたします。

ベンガルール含めまして、大商様にもお世話になりましたグレーター・マンチェスターとの姉妹都市交流も含めて、現時点で10カ国・都市と覚書等を結んでおります。あと、現在準備中のところが2カ所ございます。

3年間を期限として覚書を締結しておりまして、今後、その3年間の間に各都市との交流を深めてまいりたいと思っております、ミッション団の派遣とかも予定しておりますので、ぜひ皆様方にもご参加いただいて、大阪の国際人材、中小企業のグローバル化と申し上げますとかなり僭越ではございますが、皆様方と一緒に、万博を契機として締結した国際化の流れを途切れないように進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○本多会長　ありがとうございます。では、太田部長。

○太田部長　立地交流推進部長の太田でございます。

私の方から、インテックス大阪についてご説明申し上げます。

○本多会長　はい。インテックスのお話をお願いします。

○太田部長　委員ご指摘ございましたように、インテックス大阪につきましては、開業から40年以上が過ぎておりまして、老朽化が進んでいるところでございます。

資料にもありましたように、一部号館、3号館については基本設計、実施設計と進めてまいりまして、令和8年度には工事事業者の選定を進めてまいりたいと思っております。

そのほかの号館につきましても、展示会主催者のニーズなんかを把握しながら、必要性について検討を深めて、さらなる改修等の検討を図ってまいりたいと、このように考えてございます。

○本多会長 ありがとうございます。三宅委員、いかがでしょうか。

○三宅委員 「インテックス大阪の機能の維持・向上を図る」とありますが、ぜひ「向上」にしていきたい。ぜひよろしく願いいたします。

○本多会長 また、ご検討をお願いいたします。ありがとうございます。

では、次、布施委員。手を上げられていましたので、布施委員、お願いいたします。

○布施委員 この戦略Ⅱの「イノベーションが次々と生まれる好循環づくり」ということで、スタートアップの創出を次々に行うというのは、大阪に投資を呼び込む上でもとても重要な戦略だと思いますし、大阪イノベーションハブさんには、うちの大学からの起業家たちもたくさんお世話になっております。本当にありがとうございます。日々、努力いただいていることをとても実感しております。

でも、この先どんどん若者が減っていく中でもスタートアップの数を増やさなきゃいけない。イノベーションというのは、何が当たるか分からないからイノベーションなわけで、チャレンジする人を増やさないと、この先、どうしても投資を呼び込むには尻すぼみになっていくと思っています。

だから、何が言いたいかというと、もっと気軽に投資できる環境。投資というか、イノベーション、チャレンジできる、起業できる環境というのをつくっていただきたいと思っています。

うちの学生を見ていると、ほとんどの人間は就職活動にはめっちゃやる気になるんですけど、起業するってやっているやつは、なんか腹を決めたというか。人生賭けて、僕はルールを外れて生きるんだみたいなチャレンジを背負ってやりがちなんですよね。それはなんかちょっと違うというか。

今、仕事にAIがどんどん入ってきて、大企業に就職しようが、勉強しようが、達成感というのがきっとどんどん失われていく、つまらないものになっていくと思っています。だから起業は、これから先の人生の楽しみになり得ると思っています。

だから人生を賭けて起業じゃなくて、気軽に、大阪で生まれ育ったからには起業しようとか、大阪の大学に進学したからには起業しようとか。気軽に起業できる風土み

たいなのをこれからつくって行って、どんどん起業家を増やして、大阪に投資を呼び込むという循環をつくりたいなと思っています。僕も、じゃあどうしたらいいかという施策が何も浮かばないので、また一緒に考えてほしいなと思っています。よろしくをお願いします。

○本多会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

○一入部長 イノベーション担当部長の一入です。ご意見ありがとうございます。

先ほど、シード期、アーリー期にもっと重点を置いていくんだと申し上げましたけれども、おっしゃっていただいているように、若手の大学生、もっと言えば高校生とか、そういった方々が起業していくようなことに興味を持っていただいたり、楽しそうならやってみようと思っていただけるような環境を、我々もそれはつくっていきたいなと思っているところでして、ちょうど今、大阪イノベーションハブのリニューアルの工事をさせていただいてまして、それに合わせて、ソフト面のところも何かリニューアルしていききたいなということで、現在検討中でございます。

その中で、そういったオープンな環境をつくって色々交流をしていただいて、セレンディピティを期待していただくとか、あと先輩起業家のお話を聞いて刺激を受けていただくとか、そういった機会もちょっとつくっていききたいなということは色々考えているところです。またご助言などいただけたら、ありがたいです。ありがとうございます。

○本多会長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。じゃあ、岡崎委員、お願いします。

○岡崎委員 大阪府中小企業診断士協会の岡崎と申します。ご説明ありがとうございます。

ちょっと素朴な疑問なんですけれども、B e y o n d E X P O 2 0 2 5の中で、大阪の強みとしては、ライフサイエンスとカーボンニュートラルが挙げられているんですけれども、地域経済成長プランの中ではその辺りが弱いのかなと思ひまして、これは盛り込む必要はないんでしょうかというのが気になりました。

2点目なんですけれども、地域経済成長プランの中の戦略Iの①ですね。各支援機関と連携した経営課題等への総合的支援で、一番最初に「各支援機関と連携した」というふうになっているんですけれども、記載を見ますと、産創館による総合支援ですとか、大阪産業技術研究所ですとか、個々の支援機関での取組の記載になっているよ

うに見受けられました。

やっぱり中小企業さん、今、本当に課題がてんこもりで、事業の面をシフトしなきゃいけないですとか、経営者の高齢化ですとか、あと物価高とか、いろんな課題てんこもりな中で色々やっていかなきゃいけないので、総合的に支援をしていくというので、やはり支援機関たくさんありますので、連携をしながら、それぞれに合った支援をいくつも受けていく必要があるんじゃないかというふうに。

1つ1つの課題はあるんですけども、それぞれがやっぱり密接に結び付いているので、支援機関同士が連携しながら支援していくということが必要ではないかと思っているんですけども、そのあたりの記述が、その成長プランの中ですとか、あと取組状況、それに基づくKPIの中では、なかなかその連携の姿が見えてこないような気がしていますので、この辺りをもう少し深掘りしていただけるとありがたいかなと思いました。

○本多会長 ありがとうございます。2点、プランに関してのご意見で、1点目は、Beyond 2025に記載されていたライフサイエンスとカーボンニュートラルの産業の話というのは、ここの地域経済成長プランに入れなくていいのかという素朴な疑問というのが1点と、もう1つは、その支援機関による、中小企業を支援、その個別の産創館とか大阪産業技術研究所による支援ということは書いてあるけれども、その支援機関同士を結んでいくような、連携させていくような支援というのにも必要じゃないかというお話でした。いかがでしょうか。

○米倉部長 産業振興部長の米倉でございます。ご意見ありがとうございます。

Beyond 2025を基にして今回プランを改訂ということで、ご意見いただきました、Beyondの方にはライフサイエンスであったり、カーボンニュートラルであったり、そういった産業の集積、発展、成長といったところがあるんですけどもというところに関してですけれども、本市のこのプランに関しましては、そういった産業、分野とかに絞ってということではなくて、大阪の中小企業を中心として、小売や卸、サービス業、製造業、またライフ、デジタルなんかといった、いろんな、観光も含めて、いろんな産業動向等を集約したような形になってございます。

おっしゃっている、ライフやカーボンに関する記載がもうちょっとあった方がというところに関しましては、また中身、今後とも我々、どういったところがプランとして盛り込んでいけるのかといったところは検討していきたいと思っています。

それと、つなげていくという支援機関との連携といったところでは、先ほどもちょっとご説明させていただきましたけども、今、国、それから大阪府・市、大商さんや関経連さんといった経済界の皆さんと一緒に万博のレガシー、新技術なんかをしっかりと今後、実装化させていこうと。そういう仕組みづくりの検討を進めているところですので、そういったところでいろんな支援機関を活用して、実装化・産業化を図っていこうという考え方のもと検討を進めているところですので、またそのへんの議論を通じて、体制、仕組みづくりというところをしっかりとやっていきたいなと思っております。以上でございます。

○本多会長 岡崎委員、いかがですか。

○岡崎委員 ありがとうございます。

イノベーションのところに特定の技術が入っているので、ライフサイエンスとかカーボンニュートラルはイノベーションとはあまり関係ないということでしょうか。

○米倉部長 関係ないことは決してなくて、スタートアップの支援であったりイノベーション創出といったところで、必ずしも、そのライフサイエンスやカーボンニュートラルに特化しているわけではないんですけれども、特に大阪の強み。ライフサイエンス、カーボン。そういったところが中心にはなってくようなかと思いますが、いろんな分野におけるスタートアップであったり新技術の実装化支援といったところを進めていきたいといったところでございます。

○本多会長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。では、岡田委員、お願いします。

○岡田委員 大阪市産業経営協会の岡田でございます。

ちょっと話戻っちゃうんですけど、さっき中野部長からリボーンチャレンジの件でご回答いただいたお話について、私、今日は大阪市産業経営協会の立場で来ていますけど、実は私どもはプラスチック業を営んでおりまして、8月に西日本プラスチック製品工業協会という支援団体の下で、まさに私どもが、そのリボーンチャレンジに出展いたしました。1週間、非常に熱い思いで、楽しい体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

先ほどお話にあった、このリボーンチャレンジで、ご覧になられた方もおられるかもわかりませんが、私どもはバイオプラスチックでパイプオルガンを作ろうという企画で、2年半かけてパイプオルガンをつくって展示させていただきました。音の鳴る

楽器というのは、26団体の中でも唯一だったので、それにNHK様やテレビ大阪様の取材があり、テレビ放映されたこともあって多くの反響を頂戴しました。

その熱い思いの中で、MOBIOさんから、リボンチャレンジ・アゲインというような位置づけの展示会をやるからというお誘いを受けました。先ほど中野部長がおっしゃった12月9日、10日にマイドームで開催された「リボンチャレンジ・ビジネス・エキスポ」というイベントです。残念ながら、私がこれをご報告しようと思って書いたときは、さぞや盛り上がるだろうなと思ったんですけど、実はちょっと寂しい展示会になってしまいました。

私どもは「バイオプラスチックでリボン」というのがテーマで、プラスチック業者18社とパイプオルガンをつくった8社の合計26社が、このテーマに沿った展示を行ないました。さっきお話しいただいた商工会議所様とか、ほかの団体の皆様も同様に出展に際しての包括的なテーマはあったのですが、異業種の方々が出展されたので、非常に多種多様な展示になってしまい、失礼ですが、なんとなく統一感に欠けた展示になってしまったように思われます。また、このために出展された各々の企業様に温度差があったようにも感じました。

今回、我々はまたパイプオルガンをマイドームに持ち込んで、自動演奏ながら、演奏も行ったのですが、出展団体様の中には映像だけ流していて関係者も来場されないというようなブースもありました。我々は当時のホットなマインドを思い出して、レガシーを立ち上げて、熱気を持って、「リボンチャレンジ・ビジネス・エキスポ」にて、なんとか新しいビジネスを構築していきたいと思っていただけに、非常に残念でした。万博でのリボンチャレンジって、「最先端なものを展示する」という位置付けのものでしたので、特に我々なんか、オルガン屋でもなく、普段の技術を使ってパイプオルガンづくりという新しいことに取り組んだのです。よって、各社とも実際の商売は全然違うものです。マイドームではその辺りのビジネスマッチングに大きく期待したのですが、ちょっと的外れだったなというのが実感です。先ほどのお話の中には出てこなかったんですけど、このリボンチャレンジ絡み、ないしは万博のレガシーとして何を期待されているのかということと、これからどんなご計画があるのかをお聞きしたく思います。リボンチャレンジ云々だけではなく、もっと幅広いビジネスマッチングのようなものを、ぜひぜひやっていただきたいなと思っています。

加えて万博は10月に閉会して、もう2ヶ月たってしまいました。徐々に皆さんの

記憶から万博というのが消えていくと思うので、できるだけこの熱いうちにぜひやっていただきたいなというのが強い思いであります。ぜひ、よろしく願いいたします。

○本多会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

○井内委員 ちょっと関連して。

○本多会長 どうぞ。はい。じゃあ関連して、井内委員、お願いします。

○井内委員 私どものその展示は産業局さんがメインでしたけど、我々も共催という形で入らせていただきましたけども。

1つの大きな趣旨は、万博会場では名刺交換もできないみたいな、かなり厳しい商業化に対する規制がありましたので、そういう商談ができるように、あるいは名刺交換も色々できるようにということで。我々がサポートして出展されたところだと、それなりに色々話ができたといいところもありますので、確かに業種とか出し方によってかなという感じがいたします。

それから、さっき私ども商工会議所でも色々、いろんなところにおつなぎしたりすることをやっていきますと申し上げましたが、別にそれはリボンチャレンジに出た企業だけではなくて、それ以外にも、出たかったけど出られなかったところもたくさんありますし、幅広く。まずはそのリボンチャレンジに出られたところが、まず支援されたらなというふうに思っているということでございます。

それから展示した場合、結構取材もありましたので、プレスに載ると、いろんなビジネス関係が生まれる場合がありますので、私ども、どちらかというともそれも期待して、この間の展示会は参加させていただきました。

○北野委員 よろしいですか。

○本多会長 じゃあ、はい。どうぞ。

○北野委員 私どもの取引先38社が大阪・関西万博に出展し、そのうちの8社が万博リボンチャレンジ・ビジネス・エキスポに出展させていただきました。さきほど岡田委員の発言にありましたように、会場ではモニターを置いているだけの企業も結構あり、企業間で温度差があると感じました。

当金庫では職員が展示の飾りつけや、皆さまに足を運んでいただけるよう積極的にPR活動を行いました。また、万博に出展した全38社がリボンチャレンジに出展できるよう産業局をお願いしたぐらいの熱の入れようでした。

今後は、本気度がだんだん消え失せていかないよう、引続き、このマインドをいか

に維持していけるかを考えていく必要があります。巡回していくなど、展示方法を考
えているところです。

また、万博に出展された皆さまからは、出展することで様々な異業種の方と交流を
持つことができメリットが多かったとの声をいただいております、大変うれしく感じてい
ます。

○本多会長 林委員。じゃあ、これに関する。はい。お願いします。

○林委員 テンセンス株式会社の林です。よろしくお願いいたします。

私が今ここに座っているのは、本当に大阪の魅力発信事業とかイノベーションとい
うことで出させていただいてから、最終的に今、事業を展開して、ここに呼ばれまし
た。

このような機会を持ったときに、後に継ぐというか、これから若い子たちが、そう
なんだ、これをやると、こういうふうにしていって、魅力のある大人を見ると経済的
に、今の高校生とか大学生が、このようになれるんだというような大人にならなくち
ゃって。この出席のメンバーの方々の肩書きを見て、私はちょっとびびっていて。と
か言いながら、ここで4期出席させていただいているんですけども。

当然、私、飲食をしておりますので、コロナを超えて、補助金をもらったりとか
色々お金を融資していただいたりとかして、何年か。今2025年ですから、5年ぐ
らいたっているんですけども。この5年の中で、周りのイノベーション、飲食店と
かは倒産していきました。やはり税金の支払いであったりとか、返さなきゃいけない
融資であったりとか。あのとき、借りろ、借りろだったので。急にがーっときて。

イノベーションという言葉でやっぱり残れるのって、本当に数%なんですよね。好
きなことで仕事ができる人って、本当に一握りの人しかなくて。その中でどうやっ
たらという。若い方たちがもっと、今ここにいらっしゃるように成功されているとい
うか、ちゃんと肩書きを持って働いていらっしゃる方の話を聞く、触れ合いの機会と
いうのが、生身の人間としての語り合いが必要なんじゃないかなって私は思います。

私がそのイノベーションのときに、大人の話綺麗な言葉じゃなくて真剣に、お金
やったらこうやって借りられるねんどとか、こうやって補助金。補助金ってすごい難
しいんですよ。提出して、貰うのって。だからもうちょっと簡単にできるようなフォ
ーマットを。簡単にされたら困るんですよ、多分ね。私らも、補助金は簡単にされ
るとだめなんだというふうに聞いていたので、いかに借りられないようにするんだと

というようなことを聞いていたから、色々、簡単じゃないです。

というように、もっと私たちが若い方たちと一緒に話し合えるようなことが、機会が持てればいいなと思いました。

それとあと、うちの前って、川のナイトコンテンツとか大阪のナイトカルチャーということで、噴水を今、天満橋のところで上げているんですけども、ちょっとだけ。関係あるかどうか分からないですけど、あの工事をするときには全て、公園を封鎖したんですね。お花見とかもあつたりするのに全て封鎖をして、万博のために通らないようにしたんですけども。もうなんか、みんな、近所の方、公園管理局に電話したら、市の方が言っているんですというふうになって、お花見全然だめだったんですけど。1週間ぐらいだったかな、入れるようになったんですけど。そのときはみんな、大阪万博、恨みました。こんなことで、この前の公園封鎖されて、お花見のときになるんだというのを、ちょっとそのへん何かしていただければ。これ、愚痴です。すみません。ありがとうございます。

○本多会長 ありがとうございました。

今ご発言いただきましたけども、コロナ禍があつて、そこからなんとか復活しなきゃいけないということで、割と皆さん一体感があつて、目標を、なんとかコロナから抜け出すんだつて。さらに万博があつて、万博を機に、みんな頑張っていくんだつて、結構目標が今まであつた中で頑張ってきたというのはありますけど、ずっと発言あつたみたいに、これから先が結構、どうしていくのか難しい。

格差というお話が北野委員から最初ありましたけど、意欲の格差みたいなのもあつて、何をめざしていくのかというのが、それぞればらばらだし、どういうふうに、このコロナ禍から抜け出すとか万博とかつていうのを抜きで、どう一体感をつくっていったり目標を設定していくのかというのは、結構今、難しいところに来ているのかなというふうに思うんですけども。

何か、市役所の方の方からコメントあれば、ぜひしていただければと思いますけど。今の一連のお話聞かれて、いかがですか。ありがとうございます。はい。

○中野部長 企業支援担当部長の中野でございます。

まず、リボーンのお話で、先ほど委員の皆さん方で盛り上がっていただいていたんですけども、私もその12月9日、10日と行かせていただきまして、これ実は、産業局と大商さんの手弁当といいますか、独自財源で行っていただいている事業でご

ざいまして、府市の方からは特にお金は入っていないんですけれども、そういう皆さんの気持ちで行われたということで、私も行かせてもらっていました。

ただ、やっぱりスペースの関係もあって、ちょっと広い感じがするので、人数的にちょっと寂しいなという感じもあるんですけれども、先ほど井内委員もおっしゃっていたように、商談としては色々なつながりができたというお声も聞いております。

来年以降、このような取組という、その具体的なというのは、このリボーンの方々とか、そういう具体的には決まっていはいないんですけれども、ただ今年、万博会場外で、インテックスで4会場ぐらいで、我々、大阪市の方で企業さんを20社ずつほど集まっていたいただいて、展示会の方に展覧の支援をさせていただきました。

来年以降、万博がないということで、海外からのお客さんがなかなか見込まれない。大阪にそんなに、今年みたいに見込まれないだろうなということで、大阪ではない、例えば東京ですとか、いろんな海外から来るところに出展支援をするというようなことは、ちょっと企画をさせていただいております。

いずれにいたしましても、リボーンチャレンジの400強の団体さんですとか、そのへんは大事な、これから海外に向けてという大事な企業さんだと思いますので、連携してやっていきたいと思っております。また、市産経、異業種の方々にも引き続きご協力いただきまして、よろしくお願いたしたいと思っております。ありがとうございます。

○本多会長 ありがとうございます。

○米倉部長 産業振興部長の米倉でございます。

非常に大きなテーマでお話をいただいたところでして、これまでのコロナであったり万博であったりという非常に大きな、みんなでなんとか頑張ってやっていきましようという大きな指針みたいなものがあつたところなんですけれども、今後じゃあそれをどうしていくねんというところが、まさに今回ご意見色々いただいております、このプランであったり、万博のレガシーをしっかりと継承して成長させていこうという Beyond EXPO であり、この辺りを私どもとしてはしっかりと取り組んで、大阪の経済成長を図っていこうというものでございます。確かに万博とかコロナとかっていうものに比べると、インパクトが欠ける部分はあるかもしれませんが、万博でのレガシーをしっかりと実装化・産業化を図っていくということで、このプランであったり、Beyond EXPO に基づいて、大阪の経済、関西の経済成長といったところもしっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。

それと林委員から、ご自身のご経験も踏まえて、イノベーションであつたりとか、若い人へのPRといたしますか、若い人たちをどのように惹きつけていくのかといったところですが、我々もその若い方々への魅力発信みたいなところは育てて、人材の確保といったところも非常に重要であると認識を持っているところです。

1つ、先ほどもお話出しましたが、大阪イノベーションハブ。今、改修工事をやっておりますけれども、若い人たちが特に先輩起業家であつたりとか、いろんな方と気軽に話ができるような環境づくり。そういったところをしっかりと進めていきたいというところと、商店街の再生のお話もあつた中で、非常に今、空き店舗をどう活用していくのか。まちづくり、商店街を生かしたまちづくり、どんなふうにしていったらいいのかといったワークショップなんかも手掛けておるんですけども、非常に若い人がたくさんご参加いただいて、本当に熱い議論といたしますか、意見交換を交わしてもらっています。私も、こんなに若い人らが商店街の再生であつたりといったところに関心示してもらって、取り組んでくれるんだなというふうに非常に感激した部分がございます。

それと、ものづくりの方でも、我々、若い人だけではないんですけども、子どもたち、次代の人材といったところで魅力発信事業も万博を通じてやりましたけれども、そういったことを今後も、万博後も、来年度以降も、何かこういった形でものづくり産業の活性化といたしますか。魅力発信といったところをしっかりと頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きご支援賜ればと思います。よろしくお願ひします。

○本多会長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。じゃあ吉木委員。すみません。じゃあその次に、庄委員。

○吉木委員 私の方からは2点なんですけども、まず人手不足、人材というところなんですけども。もう一度、自分たちの会社を振り返ってみて、じゃあ受入体制が整っているのかというところ、福利厚生面で非常に充実した大阪市の独立行政法人大阪市中小企業勤労者福祉サービスセンターという。千田さんと私が、ここの役員をしているんですけども。月々700円ということで、各種慶弔給付金であつたり健康診断の補助であつたりとか、また全国のいろんなレンタカーであつたり日帰り温泉とか、そういったレジャーも割引チケットを出しています。ひと月700円。今、1万4000人弱ぐらいの会員が入っているんですけども。これは今のところは、もと大阪市経済戦略局の方が専務理事を引き受けていただいているというところで、ぜひそう

いう方も、私どもの大阪市の福祉サービスセンターだけじゃなくて、商工会議所としても、またいろんなところでやっていると思いますので、そういうことも受入体制としては十分必要かなと。

それは今、ちょっと宣伝させていただきましたけども、別のところで、今回の成長プランのところで、不足しているというか、私がちょうど日頃感じていることなんですけども、私ども大阪卸商連合会というのは、20年前には100の団体が加入した卸の連合会でした。ところが、10年前で90。今、45団体なんですね。この10年で半減いたしました。

それで、やはり結局は人件費。専務理事とかそういったところの人件費であったり、事務局の経費の高騰だけども、それぞれの協同組合、団体の組合さんの廃業とか、そういうことで。しかも、そこに組合費も値上げできないということなんですね。益々、協同組合とか、そういった業種団体が今、減少しているところです。

まだ辞めなくても、ひどいところは、理事長の会社に事務局を持ってきて、そこで運営しているとか。そういうことで、これからここ5年とか10年ぐらいの間で、もっと半減するのではないのかなということから、これは大阪市さんだけではなくて、大阪府、また中央会、我々の卸商連合会や商工会議所も含めて、こういう団体を今後どのように支援していくのかいうことを、ちょっと調査・研究する必要があるのかなと。

また千田さんのところにしても、商店街連合会のほとんどの単組の組合さんが、経費アップのたびに赤字基調で、これ以上続けられないというようなところが、かなり多く出てきているのが現状なので、なかなか表に見えないところなんですけども、非常に由々しきことになっているなということをお皆さんの頭の中に入れていただいて、今後その支援策について何かあれば、ご検討願いたいなと思っております。

○本多会長　ありがとうございます。いかがでしょうか。

○米倉部長　産業振興部長の米倉でございます。ご意見ありがとうございます。

今、吉木委員の方から、各団体さん、協同組合さんの置かれている非常に厳しい状況、赤字企業の廃業などによる非常に厳しい状況といったところをご教示いただいたところでございます。

私どもといたしましても、協同組合さんや団体さんの存在価値であったり、そういった団体に加入されているメリットみたいなのが、やっぱり必要なんだろうとい

うふうに思っております。こういった会議を通じてご意見頂戴することも非常に貴重な機会ですし、逆に我々、各団体さんの総会なんかにお邪魔して、いろんな企業さんと直接、お話もさせていただく機会もございますので、そういった場を通じて、いろんな意見をいただきながら、我々もどういったことができるのかということは今後とも色々考えて、一緒に考えさせていただけたらなというふうに思っております。

具体的に、事務局、団体の事務局に関して支援といったところですが、どういったことができるかというとなかなか難しいんですけど、今、私どもの方で「あきない伝道師」という専門家を派遣するような制度があったりします。我々としても、その組織力の強化といった面に関して、その「あきない伝道師」を使って何かご支援ができるのか、できないかといったところは、しっかり検討してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○本多会長　では、すみません。庄委員、お願いします。

○庄委員　はい。ありがとうございます。ジェットロ大阪の庄でございます。

私の感想といいますか、意見を述べさせていただきたいと思います。今回のこの地域経済成長プランは考え得る施策が十分に盛り込まれている、そもそもがとてもよくできた計画だと思っております。

そんな中で、B e y o n d E X P O 2 0 2 5を受けての今回の改訂は、非常に意味のある取組になっているのではないかと思いますし、ジェットロとしても、イノベーション、それから国際交流の促進という部分がより充実しているところについて非常に心強く感じるところでございます。

私の意見としては、万博のレガシーに関し、万博のそもそもの位置づけに「未来社会の実験場」というようなところが色濃くあったこともあり、様々な実証実験が万博会場を舞台に行われたと理解しています。私はそうした実証実験の中で社会実装できるものは、大阪経済で野心的に、日本の中でいち早く取り組んでいっていただくことこそ、レガシーに沿うものではないかと考えるところでございます。

中でも有望なのは、社会のデジタル化。D Xということは計画の中に既に盛り込まれていますけれども、冒頭のご挨拶で岡本局長の方から、紙券もやっぱり大事というご指摘もあったんですけれども、そうした一時的なところはともかく、社会そのもののデジタル化、それからキャッシュレスの推進については、ぜひともこの成長プランを通じて、大阪として推し進めていただくのがいいと思っております。

それから、ちょっと夢にはなりませんけれども、空飛ぶクルマ社会実装促進事業費というかなり大きな予算が前年度、今年度と割り当てられているということも学びました。夢にというところもあるかと思えますけれども、日本で一番早く「空飛ぶクルマ」が大阪で実現すれば、話題性や様々な観点からも、非常に経済成長にはプラスになるのではと思っております。

それから関連ですけれども、国際金融都市を進めるにあたっては、こうしたイノベーションをバックアップするという意味で、ぜひ海外からを含めベンチャーキャピタルの誘致というところに力を入れていただきたいと思えます。ジェトロもそこに注力して、これから取り組もうと思えますけれども、やはり成長資金の提供元でありますベンチャーキャピタル、これを大阪にできる限り誘致すると。

人と資金集めに東京に行かなきゃいけないというスタートアップの皆さんの状況は、ぜひ変えたいと思っておりますので、このベンチャーキャピタルの誘致というところを国際金融都市の中の重要なポイントとして位置づけていただくのはいいのではないかなと思っております。以上です。

○本多会長 ありがとうございます。

万博のレガシー、DXとか、空飛ぶクルマの実装を図っていくというのと、最後におっしゃられたベンチャーキャピタルの誘致。国際金融都市のお話もこのプランの中に入っておりますので、その辺りもちょっと伺いたいということですが、いかがでしょうか。はい。お願いします。

○太田部長 立地交流推進部長の太田でございます。

ちょっと順序が逆になるかもしれませんが。国際金融都市の関連で。

○本多会長 はい。ベンチャーキャピタル。はい。お願いします。

○太田部長 委員からご指摘のありました、ベンチャーキャピタル誘致に向けてということでございます。

今現在、金融都市の実現に向けて、国際金融都市OSAKA戦略第1期プランというのを立てて活動を進めているところでして、それが今年度で満了になりまして、第2期プランを今、策定している最中でございます。

それらにつきましては、ジェトロ大阪にも参画いただいている国際金融都市OSAKA推進委員会の方で議論を深めておりまして、ベンチャーキャピタルの誘致の方にも力を入れていくようにというふうに、第2期プランの方にも定めてまいりたいとい

うふうに考えてございます。

ともに手を携えて一緒にやっていけたらと考えておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○本多会長 ありがとうございます。一入部長。

○一入部長 はい。すみません。空飛ぶクルマの方ですけども、ありがとうございます。

当初はちょっとなかなか、予定していました商用運航は、機体開発の遅れもあって実現には至らなかったんですが、万博会場の方で大体3社で80回以上、デモフライトをしていただいた関係で、我々が想定していた以上にご関心を持っていただいた方も多くて、期待を大きく寄せていただいたところかなと思っておるところでございます。

大阪市としては、万博が終わってからも、ぜひ大阪での商用運航を実現していただきたいということで、万博会場外のパーティポート、暫定の離着陸場を整備しているところは引き続き活用して、実証実験の支援をしていったり、あと社会受容性の向上のための子どもたち向けに普及啓発のイベントをしていただいたりといったような活用を通じて、引き続き、この盛り上げをキープしていきたいなど。ぜひ実現していきたいなど考えているところです。また応援の方、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○本多会長 ありがとうございます。いかがですか。千田委員から。

○千田会長代理 はい。まず、成長プランの中に商店街、卸、1ページほど入れていただいたことに感謝いたします。

すごく悲しかったのは、まちを支えているのは商店街と私は自負しているんですけども、それがなかったという。安心、安全、クリーンなまちづくりというのは、本当にまちを支えているんじゃないかなと思っておりますので。

それと私、府から、市から、府まで、全てオール商店街の理事長、会長をやっておりまして、どうしたら活性化できるのかなということで、ここ25年ほど、インバウンドというのは、もう本当に何を考えているのと言われていたときから、インバウンドということをやっておりました。観光ということは、あらゆる産業にやっぱり影響を及ぼすということで、信じてやってきて今日があるんですけども。

そんな中で、先ほど言われた若手のチャレンジ。我々商店街、千日前道具屋筋では

ナイトマーケットというので、まずは空き店舗でやるよりも、我々が夜閉まっているところの前に、3万人ぐらいまだ通っていますから、そんなところでまずチャレンジをやらしてもらおうというようなことを、また春先からやっていきますので、何が不足かなということは、情報発信がやっぱりできていないと。先ほどもちらっと言われた官民一体となって連携をしながら、やっぱり、そういったものが必要ではないかなと思っております。

また、商店街につきましては、大阪ってこれだけ魅力がある。アジアの人にとって、すごく大阪がいい、関西がいいということで支持されておりますので、ぜひとも、もっともっと皆さんとともに、いいものをみんなで共有していきたいなと思っております。

今、我々は、民泊嫌われていますけど、Airbnbさんとの連携とか、またテントさんとの連携とかいうような形で、海外にSNSで発信をしております。

その影響でいろんな、例えば買い回りのところの天神、天満橋、天六ですか。あのへんのところとか、また駒川とか千林。かなりの外国人が来ます。それはなぜかというと、やっぱり情報発信をしていないんですね。それをやはり、もっともっと市を挙げてやっていただけたらありがたいかなと思っておりますので、よろしく願います。

それと観光が増えるというのは、インバウンドの訪日外国人が増えますと、ごみも増えます。そんな中で、大阪市はまた税収が上がったと言っているけども、どこへ税金を使われているのかなということを強く言いたいです。

やはり、トイレがない。ごみ箱がない。それをどこで借りるのって、パチンコ店で助成金払って借りているとか。喫煙所もない。路上喫煙禁止、この1月からして、何も対策せずに路上。今、皆さん方、一度、路地へ来てください。たばこの吸い殻がいっぱいあります。アジアの方は、たばこを消さないんです。灰ついたままです。ですから、今年年末、かなりのボヤが出るんじゃないかなと。そんな中で、市商連で、ここで言いますが、灰皿、私有地に置きます。もう。何もしていただけていないので。こちらから仕掛けをしていきたいなと。やっぱり防災とか、火災とかいろんな災害もありますので、そういった中で考えていただきたいと。

また、中央区なんか、特に170カ所、喫煙所つくりました。143カ所、パチンコ店の1階、2階をお借りして。私服の皆さん方が、会社員なんかだったら、パチン

コ店から出てきたらどれだけイメージ悪いか考えていただきたい。休憩なんかでね。それと10時になったら、もう閉まっているということですね。

24時間都市をめざしているとか、国際観光都市をめざするのであれば、そういったものをしっかりとつくった上で皆さん方に言っていただきたいと。

それと私、未だに大阪市さんをお願いしているのは、たばこ税。年間300億ぐらいいいただいているんですね。その比率、2、3%しか使われていない。これはあとのお金、どこにいつているのということで、国に対しても大きくお願いしております。次回から国には必ずひもをつけてくれと。財布を1つにせずですね。やっぱり商業関係に落とすんだったら、商業関係で落としていただきたいと。

先ほど、卸も40になって半減していると。商店街も毎年5%以上、組合員数が減っております。商店街も減っているんですね。このところは解散になれば、設備は全て行政が持たないかんという、そういう事態に陥りますので、ぜひともそのへんのところも力を入れて考えていただいたらありがたいかなと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○本多会長 ありがとうございます。

まさに商店街がまちを支えていて、新しいチャレンジをされているし、観光で、ゴミ問題とかトイレがない、喫煙所の問題とかもかなり対応に苦慮されているということで、ちょっと税金のお話とかも出ましたけれども、いかがでしょうか。コメントをお願いします。

○米倉部長 産業振興部長の米倉でございます。

今、千田委員の方から非常に、大阪市の足りないところ、また非常に厳しいご指摘、ご意見いただいたところでございます。

まず、商店街といったところに関しまして、まちを支えていただいている。私どもも同じ認識でして、商店街というのは地域、コミュニティの核であるというふうに認識しております。

ですので、やはり商店街に活気、にぎわいとか、そういったところが非常に大事だと思っておりますので、今、市商連さんとも連携して、にぎわい創出であったり空き店舗の活用であったり、各種取組、進めさせていただいておるところですけれども、我々もできることをしっかり取り組んでまいりたい、今後も取り組んでまいりたいというふうに思っております。

また、たばこの、特にミナミ地域、たばこの喫煙所の問題といったところもご提起いただきました。直接、私ども喫煙所の整備とかいうところは担当ではないんですけども、さらなる喫煙所の整備を求める声、多くいただいている。それは当然、承知をしております。

今、市内では300カ所以上あるとかいうことになっておりますけども、まだまだ足りないという認識の下で、今後、市内の優先度が高いエリアを中心に、どんどん整備を進めていくというふうに聞いてございます。

また、本日この場でご指摘、ご意見をいただいたことは所管局の方にもしっかり伝えてまいりたいと思っておりますので、引き続き、ご協力の方をよろしく願いしたいと思います。

○本多会長 ありがとうございました。

じゃあ、そろそろお時間になりましたので。まだまだ意見が。ありますか。じゃあ、ちょっと手短に。

○小関委員 手短に。

○本多会長 はい。

○小関委員 手短にいきますので。ちょっと事前に言っていないコメントなんですけど、今、最後に国際金融都市という話がありました。

それで1つ、認識を共有したいのが、割とベンチャーキャピタルといいますと、そのベンチャーキャピタルで働いている人が、あたかもベンチャーを支援できるように皆さん認識を持つかもしれないんですけど、その体制の品質にはかなりばらつきがあります。

それから、さっき産業局さんとか中小企業診断士協会さんは長年起業支援に携わっていらっしゃるのでもノウハウは積み重なっているのですが、様々なステージの企業がある中で支援者の個別のクオリティにばらつきがあり、そのへんの認識は今後注視していった方がよいと思われまます。

シティ信金さんは、地元企業にずっと密着したサービスを展開しているので、大阪にとっては貴重なノウハウのなのですが、どうもベンチャーの支援者にクオリティのばらつきがあるということについて認識を共有させてください。すみません。よろしく願います。

○本多会長 ありがとうございます。

そしたら、まだご意見あるかと思うんですけど、ぜひ事務局の方に、追加のご意見なり質問なりは寄せていただければと思いますので。とりあえず、今日の審議についてはこれで終了ということにさせていただきます。

それでは、マイクを司会の方にお返しいたします。お願いいたします。

○矢野課長代理 皆様、ご審議ありがとうございました。

本日ご欠席になりました委員からも少しご意見としてございましたので、ご紹介させていただきますと、空飛ぶクルマの社会実装に向けて、社会的な機運醸成とともに、1日も早いネットワーク形成に向けた具体的な検討をお願いしたいといった意見や、ナイトコンテンツについて、少子化で事業者もバイトの確保が難しい中、DXの力を借りながら進めていくといったことが大事ではないかといったご意見がございましたので、この場でご紹介をさせていただきます。

本日、様々ないただきましたご意見も踏まえまして、引き続きプランの改訂作業の方は進めてまいりますので、よろしくをお願いいたします。

なお、本日ご頂戴しましたご意見以外に、追加で意見、質問がございましたら、本日以降、メールでお知らせいただきましたら、対応してまいります。その場合、作業スケジュールの都合で大変申し訳ございませんが、今月末までにご連絡いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

そうしましたら、閉会にあたりまして、最後に岡本局長よりご挨拶の方を申し上げます。

○岡本局長 本日は、皆様お忙しいところお時間いただきまして、また貴重なご意見、ご指摘をいただきまして、誠にありがとうございます。

皆様、業種は色々、業態も違いますので、たくさん多様な意見をいただきました。その中で、特に万博というキーワードが出て、もちろん、万博レガシー。我々もそれは、さっきジェトロの庄さんが言われたように「未来社会の実験場」で、今度はそれを実装化していかないと意味がなくて。

それこそ空飛ぶクルマは、大阪で一番最初にやりたいと思ってチャレンジをしていますし、何より今回一番、私が実感しているのは、万博を通じて、今まで大阪は、アジアからは非常に親近感を持たれて支持されているんですが、やっぱり欧米とかアフリカとか、誰も大阪を見てくれていなかった。ほとんどがやはり東京を見ているんですよね。だから今回、僕らがこれから進んでいく、例えばマンチェスターもそうです

けど、ポーランド。ウッチ市というところですけど。ポーランドが大阪を見たり、スウェーデンとか、インド、ベンガルールもそうですし、アフリカのエチオピアもそうです。これらの都市って多分、万博なかったら大阪を見ていないし、東京しか見ていないくて。

彼らも、大阪で万博をしたから大阪で何かビジネスしないと、万博でお金を使って終わるだけでは意味がないと。でも、日本全国とビジネスできないから大阪とビジネスしようということで、彼らも万博で投資した分、大阪でビジネスをして回収したいと思っているので、そのチャンスなところがあって、僕らもそれに今、必死にくらいついてやっていこうと。

ただ、しかし、いろんな、これからそれをビジネスとして、我々はまた人を充実してやるんですけど、先ほど委員から指摘あったように、国際人材どうなっているのと言われると、実は国際人材、たくさん必要ですけども。かつて、大阪はアメリカやヨーロッパやオーストラリアに事務所があった。それは、やはりそこにいる人というのは、いずれ帰ってきたら国際人材として使えたんですが、贅沢だなんだというあの時代に、大阪市、全部なくなってしまって。逆に言えば、国際人材は、そのとき行っていた人、今はもう大体、多分50歳近いかなと思う人しかいない。

これではあかんので、今、ジェットロに人を派遣して、1年、国内で勉強させてもらって、1年、国外でということですけど、それはありがたいけど、それぐらいではジェットロさんもよくないし、もうちょっと長い期間派遣させていただいて、そこで揉まれて帰ってきて経験を得ないと、相手と来ても我々の方で。その国際人材というのは単に英語が喋れるだけでは意味がないので。ちゃんと向こうの文化や習慣、そういうことを理解する人が必要だと思うので。

今日いろんな意見いただいた中では、やっぱり国際人材はと言われると一番痛いところですし、それから、やっぱりスタートアップ、イノベーションについても、近大の布施先生ですかね。もっと気軽にできるというか、人生賭けてそんなヘビーなことを考えんでもいいのになと。

特に、若い学生なんかは、もっと自由にやってもらいたい。僕らもそういう思いがあるんですけど、さっき先生も言われたように、じゃあどうしたら、この学生が、大阪の学生が立ち上がって動くんだろうというのは、逆に僕ら、学生から遠いので。身近にある公立大学にはけしかけて、どうなん、どうなんってやるんですけど。布施先

生みたい人はいいんですけど、先生によっては、大学はそういうことを教えるところじゃないとかね。やっぱりそういう人もたくさんいらっしゃるし。

時代が多様性を持っていても、そうじゃないという人もいらっしゃるし。実はそういう指摘もされて、僕らもやっぱり、うーんという。同じような悩みを持っていて。なんとか、やっぱりもっと学生にできるような支援というよりも、その前に、その気にしていかないといけないし、そういう立ち上げをどうしたらいいんだろうというのは非常に思っていますし。

千田さんから、僕らもトイレやったわけじゃないんですけど、喫煙所もやった所属じゃないんですけど。ミナミみたいな土地の高いところに、どこにトイレつくるんやろうとか、喫煙所なんかつくれるのかと。

ただ、ごみというのは、ごみ対策というのは我々観光をやっていますので、観光客も増えてきて、これはもう緊急の課題で、きちんとやる必要がある。ごみ箱がないんです。捨てたって、年間100万円以上のやはり回収のお金がかかるので。これはやっぱり大阪のまちとして、ごみが散らかっているようなまちじゃ、人は来てくれないので、しっかり我々も乗り出しますし。喫煙所は本当に僕らのところでは、こんなことをして、どこに喫煙所をつくるんやろうと。めちゃくちゃ金高いやろうと思いがながら。トイレも同じなんですけど。

やっぱりその問題は観光客という、僕らにとったら、インバウンドで大阪が観光産業というのが一大産業の1つになっているので、そこはやっぱり、確かに主管部局はうちではないですけど、口出しながら一緒にやっていこうということで、実際ミーティングを開いていますので、きっちりやっていきたいと思います。

それ以外も色々、インテックスなんかしてくれって、僕らもなんとかしようと思っていてありますので。もうちょっと待ってもらったら、インテックスこうなんやというのが、大きい声にできるかと思いますが。

そのほかにも色々指摘いただいたこと、ごもっともですし、その中には今日、新たに認識した問題もありますし、あるいは、ちょっと今日は話されんけど、今具体的にこのところを詰めているなどというのもございます。

こういうことは我々も本当に今日は、そういう意味ではいろんな意見をいただいて、新たに考えなきゃいけないこと、これまで考えていることがもっと早く具現化していかなきゃいけないこと、たくさんございました。

今後とも、皆様方にはご助言を頂戴できればと考えておりますので、引き続き、お力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。
○矢野課長代理　　ありがとうございました。

それでは最後に、委員の皆様にご事務連絡でございます。お手元にお配りしております「本日の交通手段について」と書かれた用紙をご覧いただきまして、こちら、本日もお越しの際にご利用いただいた交通手段をご記入いただき、会場出口の事務局担当者にお渡しください。お手数をお掛けしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、長時間にわたりご審議を賜りまして、誠にありがとうございました。これをもちまして、本日の審議会を終了いたします。

それでは、どうもありがとうございました。

○全員　　ありがとうございました。